

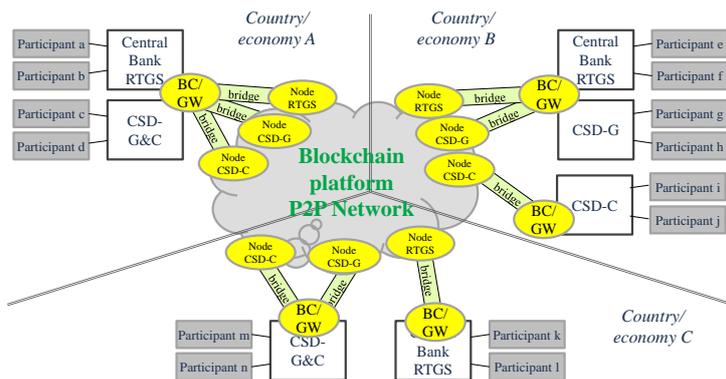
ブロックチェーン技術を活用した ASEAN+3 における
 金融市場インフラの相互接続 CSD-RTGS リンケージについて

乾泰司 JICA 専門家、ADB コンサルタント、ISO/TC68 メンバー¹

金融市場インフラ (FMI²) を P2P ネットワークで接続しブロックチェーン・プラットフォームを活用し相互接続する CSD-RTGS リンケージについて具体的な手順・フロー案について議論することが本ペーパーの目的である。クロスボーダーDVP リンクおよびPVP リンクを例にとり議論したい。クロスボーダーDVP リンクとは、異なる通貨建で表示される証券と資金を交換する (例えばクロスカレンシーレポ) の決済において、資金の支払が行われる場合のみに証券が受け渡されること (DVP) を確保するために、証券決済システムを運営する CSD と資金決済システムを運営する中央銀行を接続するものである。また、PVP リンクとは、異なる通貨建の資金取引 (外国為替<FX>取引) の決済において、双方の資金の支払が完了した場合のみに決済が完了する (PVP) ことを保証するために、各々の資金決済システムを運営する中央銀行を接続するものである。ここでは、①エコノミーA における資金取引とエコノミーB における国債取引に関するクロスボーダーDVP 決済について、②エコノミーB における資金取引とエコノミーC における資金取引に関するクロスボーダーPVP 決済について、P2P ネットワークにより接続するとともに、ブロックチェーン技術を活用し決済を行う方法について考察 (図表 1 参照)。

なお、FMI の相互接続は、欧州において、共通通貨ユーロの誕生と関連し Target Interlinking System、Target2、T2S と接続が進展し、現在の統合プラットフォームが開発されていることから、CBDC のクロスボーダーでの利用、デジタル共通通貨の議論なども繋がると言える。

図表 1、CSD-RTGS リンケージモデル



¹ AG5 (Digital Currencies), SC2WG17 (Security Aspects of Digital Currencies), ISO20022 (Payments SEG and Securities SEG), SC2WG8 (PKI Management for Financial Services)
² Financial Market Infrastructure: ここでは、CSD (Central Securities Depository) および RTGS (Real Time Gross Settlement) システムを想定。CSD および RTGS は、各々、証券保管振替機構、即時グロス決済とも呼ばれている。